

このセクションでは、担当科目の中の一科目である 2LR の授業の取り組みと今後の展望について紹介させていただき、次に自分の専門の一つである小学校外国語活動と英語実習について簡単に述べます。

## I. 2LR の授業

### [理論的基盤]

1. 外国語教育指導観：現在英語教育は「教え中心」から「学び中心」へ、つまり Learning-centered にパラダイム・シフトしています。新たなパラダイムでは、教師が講義形式に教えることを授業の中心に据えるのではなく、学習者が四技能を駆使してコミュニケーションなタスク活動に取り組めることを主眼としています。その目的をもって教師は十分な授業計画と準備を行い、授業中は facilitator（学習の手助け）の役割を果たすこととなります。したがって成績評価については、結果的にテストなどによる実力向上の結果を測るプロダクトのみではなく、学習のプロセスをも評価の対象にします。
2. 学習者心理：学習者の学習動機や意欲は廣森（2006）や他の報告があるように、自己決定理論に基づき、英語学習場面においては、「学習意欲の高さと自律性、有能性、関係性などの心理的欲求の高さが連動している。」と考えています。この学習者心理観は「学び中心」の指導観と一致しています。
3. 第二言語習得理論から：学習目標言語の力をのばす条件の一つとして「適切なレベル」「興味ある内容」の英語になるべく多く「接する」ことです。学習者にとって英語「接触量」をなるべく増やすことが肝心です。

### [授業での実践]

以上の理論と考え方は、私が英語実習授業で英語学習指導をしていく上での基盤となっています。まず、今年度までの2LR(2年生用のListening & Readingの授業)について紹介します。

## 1. 目標

- (1) やや専門的な知識や語彙を必要とする記事を除いて、1時間で10～15位の短い新聞記事(短い記事=100～400語程度)を読めるようになる。
- (2) 新聞の社説やコラムも時間をかければきちんと読めるようになる。
- (3) NHK(TV)のニュースを英語で聞いて、画像を参考にすれば、ある程度わかるようになる。
- (4) 自分で選んだ英文原書・書物等を継続的に読むようになる。
- (5) クラスメートが紹介する記事内容(英文)を読んで、コメントが英語(30語以上)でできる。
- (6) 自分で目標を設定する。(学期初めにジャーナルの裏表紙に書いてもらい、学期末の提出時にはどのくらい達成できたか「振り返り」メモを書いて提出。)

## 2. 授業の組み立て

### (1) 教材

英字新聞(the Japan Times)を用います。英字新聞を用いる理由は、三つあります。一つは「英語実習」は教養科目であることです。新聞に紹介される様々な記事を読み一緒に考え議論していくことが、大学2年生の教養科目の教材として相応しいと考えます。二つ目は、英語学習の観点からです。スムーズなreadingをする条件は、背景知識がある、習熟に応じた英文のレベルと長さである、読み手にとって興味あるトピックであることです。学生は自ら記事を選ぶことで調整をします。(こちらで指定する記事もありますが。)もう一つは自律学習の観点からです。2LR終了後、学生が自分で英文を読んでいく上で手に入れやすい、また、社会人になってもお付き合いをしていくのが新聞です一例え、Webで読んだりするにしても同じことです。英字新聞を読む力があれば、世界のどこにいても情報に事欠きません。

### (2) 授業構成

#### ① 授業までにすること： My Journalの作成：

学生が授業までにすることが二点あります。一つは、前週の授業で扱ったJapan Times(指定の曜日のものを授業に毎週持参する)から記事を1つ選び、その内容のサマリーと

コメントを英語で書いてくることです。B5 ノート見開き左側の 1 ページを利用して、サマリーとコメントの他、読んだ記事の切り抜きかコピーも貼ります。右側はあけておきます。ここにはクラスメートのコメントが入ります。

二点目は、自分で、WEB 等を利用してエッセイやニュースを 1 つ選び、口頭（英語）でクラスメートに伝えられるように準備してくる事です。(利用できる WEB のリストあり)。選んだ英文はプリントアウトして、B5 ノート（同じ B5 ノートの反対側から始める）の見開き左側に貼付します。見開き右側に、key words やマインドマップ等、口頭で伝えるときに参考にする[メモ]を書きこみます。授業ではこのメモを用いてクラスメートに読んだ記事の内容を英語で伝えます。書いてきた英文をそのまま読んでは、練習効果は半減します。

以上課題 2 種類に取り組んで授業にのぞみます。1 回の課題に 4 ページ分ノートを使用することになります。また、極力、指定の Japan Times を購入したら、記事が新鮮なうちに一通り目を通してくるように指導しています。時間がないときは写真、ヘッドライン等を見るだけでも良いかと思えます。どのような記事があるかをなるべく把握して授業に臨むことです。

## ② 授業の流れ

1) (クラス一斉) 課題から：クラスメートの Journal を読み、英語でコメントする。まず、貼ってある記事とサマリーを素早く読み、次に書かれているコメントも読みます。次にコメントに対してコメントを英語で書きます。スピードが要求されます。

2) (ペア・グループ活動) 課題から：予め選んで読んできた Web 記事の内容をペアの相手に英語で伝えます (メモを見ながら)。

3) (ペア・グループ活動) 授業担当者が選んだ複数の記事から 1 つ、「ジャンケン」して勝った方から順に選びます。選んだ記事を速読し、その内容をメモします。メモを参考に相手に英語で伝えます。相手からの評価ももらいます。

4) (個人活動) 授業者が用意した worksheet の課題に答えるように新聞を読みます。この worksheet で提示される課題は、記事を読んで英語で意見をまとめる、記事を読んでサ

マリーを英文で書く、記事を scan してキーワードのみ見つける、など様々で reading skill を身に着けます。特定の記事に関して、クラスメートとのディスカッションも最後にあります。

5) worksheet の提出。

6) 前の授業の worksheet の返却とフィードバック

#### [授業の効果と問題点]

学期末に授業アンケートを実施しています。その後の英語学習状況も気になりますので、一部の学生をトレースしています。その結果をまとめると以上ようになります。

1. 学生の英文を読むスピードが上がり、長文に対して拒否反応をしなくなる。
2. 様々なニュース記事などを自分で選ぶことで、次の学期に入っても課題であった内容を自主的に継続する学生が多くいる。
3. 英語で少し反応ができるようになる。
4. 新聞を読む、ニュースを見るといった世の中の動きを追っていくようになる。

問題点は毎週 worksheet を回収しても必ずしも返却できていない点です。

Worksheet には英語による解答や意見は無論、日本語による解答もあります。特に英文で書いた部分は、学生によっては内容へのコメント、英文の添削を期待する声もあります。また、worksheet (15 回分) を見直すことで自分の学習の軌跡を振り返ることもできる。したがって返却することは教育的効果があると考えます。しかし、この点が十分に実行できていません。したがって、教育効果は半減しています。

#### [今後の対策]

授業の指導方針を一部変更することを予定しています。Worksheet は毎回 2 種類作成します。提出用と学生が自分で保存するものです。提出用には、学生が「添削」とコメント」を希望する課題一つの解答を書く。残りは保存用に記述する。こうすることで授業内に終

わからなかった残りの課題に関して、授業外の時間に取り組むことができます。未提出部分は、授業者である私が毎授業内に机間指導をしながら確認をするとともに学期の終りに提出してもらうことで確認をすることを予定しています。

#### [今後の展望]

この授業方法は、国大生に向いていると考えています。もっと多くの学生が英字新聞を教養科目の授業で読めるよう、カリキュラム上の工夫を計画します。

## II. 小学校外国語活動と英語実習

### 1. 小中高大の連携の観点から

現在、横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校、附属横浜中学校で学んできた生徒さんの英語学習を追跡調査しています。附属小の小学校外国語活動と附属中の英語科の授業に関連したアンケート調査を行い、授業観察も行い、データの分析・解釈をして2回論文、2回口頭発表を行いました。

対象としている生徒さんたちは、この春高校に進学します。40名弱が国大の中高大の研究対象校である光陵高校に進学します。追跡調査は更に続きます。きっと何人かの方は国大に入学し英語実習を受講すると思います。入学後も追跡調査を実施して行きたいと思えます。生徒さんたちの成長と英語の授業の関わりを中心に研究を継続していく予定です。

### 2. 英語実習に取り入れたい「小学校英語」

多くの教育人間科学部の学生は小学校教員免許状を取得します。小学校に勤めるようになれば「小学校外国語活動」にも関わるようになります。そのために国大にも「小学校外国語活動指導法」という講座が新年度から開かれます。指導に要求される英語力は現在のところ中学校や高校で英語教員になる場合とまったく異なります。英語力以外の要素が多く含まれているからです。しかし、中学校1年生と2年生前半くらいで扱う英語レベルの「英語運用力」を身に付けておくことが望ましいです。小学校教員希望者が履修する英語実習の中に週5分でも授業中に基礎英語の確認ができる「コーナー」があるとよいと考え

ています（極めて個人的な意見ですが）。特に「発話」の視点からです。今後可能性を探っていくつもりです。